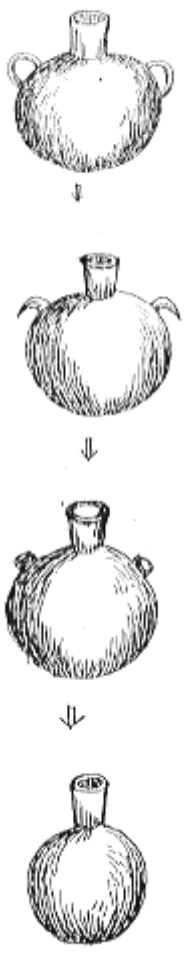


須恵器提瓶 (下野田町)

昭和四十四年に下野田町の林呉服店が鉄筋コンクリートの店舗を建てるために地面を掘ったところ、約二メートルほど下から完全な須恵器の提瓶や壺のかけらが出てきました。

この土器は古墳時代後期(約千三百年前)のもので、当時の人が使っていた水筒のようなものですが時代が進むにつれて紐を吊す持ち手が短くなり、後には、持ち手のない瓶になってしまったと言われています。

提瓶の移り変わり



大変、貴重なもので、福井県遺跡台帳に登録されています。このことから、下野田町には古墳時代から人が住み、生活をしていたことが分かりました。

林呉服店の辺りは南岡と言って、昭和の初めごろまで細い道がくねくね曲がり、その両側は麻畑や桑畑だったといわれています。わたし達の住んでいる町の地下には、まだまだ沢山の土器が眠っていることでしょう。

大昔の人々のくらしを知るために、これからの出土品が大変役に立ちますので、形をこわさずに掘り出すことが大切です。



山ん寺から出土した須恵器



須恵器提瓶